

## 事務局から

## 編集後記

▼1月25・26日、全国教育研究交流集会（民主教育研究所等主催：東京）に参加。全国各地から160名が集った。安倍政権が「子どもを戦争への道」にと執念を燃やす「教育再生」の理念、政策、手法などの全体像を全体会・分科会で明らかにした。それらの議論は、「通信」や「本誌」で紹介していく。次号でこの問題の特集を企画中。

▼子どもの学びの質と関わって、これまで研究所として取り組みの弱かった小・中学校への取材訪問ができた。両校長とも教師集団による児童・生徒の「学び合い」の実践を積極的に紹介された。教師の奮闘ぶりに頭が下がる思いと、過密な勤務になるのではなく、教職員の健康に懸念を持った。

▼「学びの共同体」を提唱する佐藤学氏の授業実践の研修会（新潟市）に初めて所員3名で参加した。60名を超える参加者で、各自の授業実践をビデオで見あい、検討し合う形だった。このスタイルの研修会は20年近く続くという。子ども主体の実践に焦点を当て、真摯に取り組む姿勢が印象に残った。

（内山）

▼いま日本の公立の義務教育学校に、まるで妖怪のように「学力テスト」体制が荒れ狂っている。

私たちが日頃から「学力テスト」体制の弊害を批判するが、現場の実際の動きには疎いところがあった。

今回は久しぶりに学校現場に入って、実際の状況に触れてみて検証することにした。得るところの多い体験であったが、その結果はどうであったか、会員の皆さんのご意見をお待ちします。

▼「この人に聞く」は、ご多忙のところを無理にお願ひして河辺昌子さんにご登場願ったところ執筆までして下さいました。

河辺さんは原発問題で「安全安心神話」に多くの人が騙されたのは科学教育の欠陥ではないか」と語っておられます。環境問題でご活躍されてこられた方の言葉だけに傾聴に値します。

▼滋賀民研の本田さんから大津市立いじめ自殺事件にかかわる論文をいただきました。これは昨年に大津市で開かれた、全国民間教育研究所の交流集会での現地からの報告

をもとに改めて書いていただいたものです。

いま道徳を教科にする動きがありますが、まずまず「寛容なき」児童、生徒指導が学校現場に横行するおそれがあります。

▼前号の特集にひきつづいて、上村さんに子どもの貧困について書いてもらいました。社会福祉行政にかかわる立場からのレポートですが、上村さんご自身もさまざまな形でネットワークづくりを進めておられます。行政と民間が協力して広いネットワークをつくる必要があります。

（大滝）

## にいがたの教育情報 No. 114

2014年4月10日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭 三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。